

事業名	動物愛護管理指導費		
細事業名	動物ふれあい事業費	財務コード	088405
担当部課室	福祉保健 部 衛生業務 課 食品衛生・動物愛護 担当 (内線)	3457	

調査番号	54
------	----

I 事業の概要

実施期間	始期 H13 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
目的	だれ(何)を対象に 小学生等	その対象をどのような状態にして 子犬などのふれあいを通じ、犬の習性及び正しい接し方を学び、命の大切さを理解している。	結果、何に結びつけるのか 動物愛護思想の普及 県民意識の向上
	内容 小学校への訪問や動物愛護指導センターへの来訪、各種イベントにおいて子犬などと接することにより、命の大切さ及び犬の習性、正しい接し方、人と犬の違いなどを学習する。 ・小学校及び動物愛護指導センターにおけるふれあい教室の実施		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
活動指標	ふれあい教室の実施回数	目標	28	28	28	28	28	28
		実績(見込)	39	29	25	16	24	28
		達成率	139.0	104.0	89.0	57.0	86.0	100.0
		達成区分	a	b	b	c	b	a
成果指標	参加者数	目標	574	574	574	574	574	574
		実績(見込)	653	523	658	413	625	574
		達成率	113.8	91.1	114.6	72.0	108.9	100.0
		達成区分	b	b	b	c	b	a
決算(予算) 単位:千円		289	297	296	296	297	195	174

III 事業の評価(平成29年度の業績評価)

活動指標	b	評価 命の大切さなど動物愛護の心は、子供の頃の体験が重要であり、ふれあい教室等を通じ、子供達からは「今まで怖かったけれど触ることができた」「暖かくてふわふわしている」「心臓の音が聞けて良かった」など好評な意見が多く寄せられている。また、学校で動物を飼養することが少なくなっていることもあり、教員からは動物と接する機会が提供できると好評である。
成果指標	b	

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。  
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

関係与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input checked="" type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input checked="" type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	ふれあい教室を実施している動物愛護指導センターにおいて、開催可能な回数があるため、これ以上の成果向上は困難である。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )		
その他	説明	動物の愛護及び管理に関する法律及び動物愛護管理基本指針に基づき実施しており、参加者等からは好評な意見も多く、効率的に実施できているため見直しの必要はない。		
見直しの必要性	無	参加者等からは好評な意見も多く、効率的に実施できているため見直しの必要はない。		

V 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

現行どおり	説明	
-------	----	--

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。